

首里杜地区整備基本計画検討委員会(第2回) 議事要旨

日時：2022年2月3日(木) 14:00~16:00

場所：沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室

【首里杜地区整備基本計画(素案)第1章関連】

- 首里杜地区だけでなく、元の首里杜構想であった「歴史的風土保全地区」もきちんと位置づけるべき。
- 新・首里杜構想だけではなく、元の首里杜構想の考え方について整理すべき。

【首里杜地区整備基本計画(素案)第2章関連】

- 「文教の都市」は戦後ではなく近代以降の特徴として再定義を。
- 琉球文化に起因するものでも戦後の復興を象徴する資源や、生活と密接にかかわっている資源なども追加したほうがよい。
- 中山門や綾門大道の意義についてしっかり位置づけてほしい。
- 将来像の「持続可能な首里杜地区」という表現は、もっと分かりやすい表現にしたほうがよい。

【首里杜地区整備基本計画(素案)第3章関連】

- 那覇市としては、御茶屋御殿については、「復元に向けた計画づくりを目指す」という文言に修正してほしい。
- 「スクールゾーンにおける安全対策」という表現は、「ゾーン 30 プラス」など新しい施策に即した表現を。
- 「交通環境最適化」は、何を以て最適とするかということが難しい。「継続的改善」のような表現が適切ではないか。
- 現在の3つのパッケージとは別に、首里染織館 suikara 周辺エリアを位置づけてはどうか。

【首里杜地区整備基本計画(素案)第4章関連】

■協議会の役割、構成について

- 議論だけで終わらず、計画やまちづくりのローカルルールに反映されるよう、協議会の根拠づけが必要。そのためにも行政が関わっているという下支えが必要で、那覇市が本計画に参加することは必須。
- 学術機関・専門家は、個人で参加するイメージではなく、団体として活動・支援できる仕組みが必要だ。また、文章にも「支援」という言葉を入れてほしい。
- アーバンデザインセンターの主役は住民であり、「議論」し、「活動」する場である。地域住民が主役として責任をもってまちづくりに取り組み、それを行政が徹底的にバックアップするという考え方のアーバンデザインセンターである。
- 実際に事業を起こす際には、事務局はどこが行うのか、資金・補助金の運営管理はどこが担当するのか等、棲み分け・役割分担が重要になる。
- 協議会の部会は、暮らしや社会を議論する会が抜けている。本計画の中である程度定めるのではないならば、例示は削除してほしい。

■地域住民の関わり方について

- 地域住民の「協力」や「責任」という言葉の記載があるべきだ。取り組みの一部やモニタリングなどでも住民の協力によって可能となる取り組みがある。

■那覇市の関わり方について

- 沖縄県や地域のみでの取り組みだけでは、上手く回らない事業が数多くあるので、那覇市も事業主体や事務局へ参加し、積極的に取り組んでほしい。
- 今の意見は、地域からの意見だけでなく、委員会からの意見としてとらえてほしい。
- 那覇市には既存の協働の枠組みがあり、この協働の枠組みと、本計画を推進する協議会がどう連携するかを考えるべきだ。

【首里社地区整備基本計画(素案)取り組み、その他、表現など】

- ロードマップでは本計画のために新規で位置づけた取り組みが一目でわかるよう色分けしてほしい。
- 歴まち法を活用できそうな事業を色分けしてほしい。
- 水との関係性について、特徴としての位置づけだけではなく、今後の活用方針を示すべきである。産水や正月の若水などのように民俗的な結びつきを再び生み出すことが必要。
- 上記は水資源だけではなく、他の歴史文化資源についても、もう少し踏み込んで方向性を示してほしい。
- デマンドバス・循環バス・シャトルバス・パークアンドライド等の施策は実現が難しいのでは。バス会社は赤字であり、バス 1 台あたりの労働生産性を向上させることが大切で、住民に乗ってもらえる路線でなくてはいけない。
- 計画を推進する上でイメージがあると取り組みやすい。どのように計画を進めていくのか、どのように変化してほしいのか、それらが伝わるようなイメージスケッチなどを入れてほしい。

以上